

第4学年 国語科学習指導案

公開	/ 児童	2組	男14名	女14名	計28名
	指導者	関戸	文則		
公開	/ 児童	1組	男15名	女13名	計28名
	指導者	遠藤	美枝		

- 1 単元名 調べたことをほう告しよう
- 2 教材名 生活を見つめて - 四年一組生活白書
- 3 単元について

(1) 指導の重点

第3・4学年の書くことの指導目標は、「相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。

これを受けて本単元では、「生活の中で疑問に思ったことを調べて報告する文章を書き、自分たちの生活を見直す」ことをねらいとしている。

子どもたちが「疑問に思ったことを調べる」場合、社会事象や自然現象に偏り、「調べる」活動は辞典や図鑑などを使うことが多くなる。そこで本単元では身近な問題について「アンケート」を使って調べる学習を位置づけ、取材方法の広がりを図る。学級という最も身近な集団について調査することで、学習に対して意欲を持たせる。また、他学年や保護者に自分たちの生活について公開するという場を設定することで、自分たちの生活を見直させ、相手意識や目的意識を明確にさせていく。

考察や自分の考えを効果的に伝えるためには、段落の続き方や役割に注意して書くと同時に、段落相互の関係をふまえ、文脈の通った文章を書く指導が必要である。事柄ごとのまとまりを意識し、区切りを考えることで、段落の役割やつながりについて考えていけるようにしたい。

(2) 児童の実態

児童はこれまで、「新聞記者になろう」で書こうとする中心を明確にしながら段落の続き方に注意して書くこと、「グラフをもとに」で読み手にとって分かりやすいように事柄ごとに分けて書くことを学習してきた。

課題作文や日記、朝自習の「書く活動」などで文章を書く活動を重ねるにつれ、「書く」ことへの意識が高まり、「相手意識」や「目的意識」も徐々に定着してきている。また、友達の良さを見つけ、その良さを自分の表現に生かそうとする態度も出てきている。書こうとする意欲も旺盛な子が多い。

しかしまだ、事実と意見を区別したり、文章全体を意識して段落のつながりを考えたりすることが苦手な児童が少なくない。個人差も大きく、書く意欲はあるが、多くを詰め込み中心がぼやけてしまう児童や、逆に語彙の不足によりなかなか文章を書き進めることのできない児童も見られる。

(3) 教材観、指導観

白書とは、生活のある面について、事実を調べて分析し、現実を把握するとともに、今後の見通しまで検討してまとめた文書である。自分たちの生活のどの局面に光を当て、何を明らかにしたいのかをしっかりとらえさせていく必要がある。理解段階で白書を書く意味をきちんとおさえ、単元を通じて意識させながら指導を進めていきたい。

本単元は、アンケートの作成、アンケート実施と集計、結果をまとめた報告書の作成、の大きな三つの学習過程で進めていく。題材の選材のさせ方によって意欲を喚起する教材となり、情報収集力やまとめる力を伸ばすことのできる教材である。また互いのコミュニケーションを図り、伝え合う力を高めていくことをねらって、グループ学習を取り入れていく。

アンケートを進める際は、学校生活の中で「みんなはどう思っているか」という、知りたい内容をはっきりさせて調査項目を考える必要がある。何のために調査するのか、目的意識をはっきりと持たせて指導を進めていく。また、アンケート実施後の処理結果のまとめ方について、見通しを持たせることも大切である。結果の予想や集計方法、結果の分析、結果をまとめ「報

告文」を書く段階まで、見通しをしっかりと持たせるよう、指導の工夫を行う。特に質問項目はポイントを絞ったものにするとともに、答えやすい内容にするよう、指導の工夫をしていく。

構成段階では、「調べた理由」「調べる方法」「調べて分かったこと」「考えたこと」などにわけ、段落のつながりを意識させながら指導していく。記述段階では、報告文を二つに分け、グループで確認しながら書く部分と、自分のアンケートに関わる部分とにわけて書かせる。推敲段階では、段落のつながりはどうか、アンケートの結果をどのように文章に生かしているかを考えながら行わせたい。交流段階では、お互いの報告文を読み合い、感想を交流しあうことで自分たちの生活を見直すきっかけとさせたい。

4 単元の目標

生活の中で疑問に思ったことを調べて報告する文章を書き、自分たちの生活を見直す。

【関心・意欲・態度】

- ・報告文を書くことに興味を持ち、意欲的に調べたことを書こうとする。

【書く力】

- ・調べたことをもとに、段落と段落の続き方や表現方法を工夫して、説得力のある報告文を書く。
- ・生活をよりよくするために、身近な問題について、方法を工夫して調べる。

【話す・聞く力】

- ・何を調べるか、どのようにまとめるかなどについて話し合う。

【言語の力】

- ・句読点を適切に打ち、また、段落の初めなど必要な箇所は、行を改めて書く。
- ・文章全体における段落の役割を理解する。

5 単元の指導計画・評価計画（15時間）

段階	時間	指導目標	学習内容	評価規準
理解	1	・調べたことを報告する報告文を書くことを知り、学習の見通しを持つ。	・単元のねらいと白書（報告書）の意味を知り、主文を通読して学習計画の見通しを持つ。	関 報告文を書くという事に興味を持ち、調べたことを意欲的に書こうという気持ちを持っている。
取材	7	・自分の調べることを明確にし、決定する。 ・調べるために必要なことを考え、分かりやすいアンケートを作る。 ・結果を整理し、分かったことや考えたことをまとめる。	・相手意識や目的意識をはっきりさせ、何を調べるかを話し合い、テーマを決定する。 ・調べるテーマごとにグループを作り、具体的な内容を話し合う。 ・アンケートを作成し、その答えを予想する。 ・結果をグラフ化したり、表にしたりして整理し、分かったことや考えたことをまとめる。	話 自分が調べたいことを明確にして、話し合いに積極的に参加している。 書 書く必要がある事柄を集めたり選んだりしている。 書 相手の答えやすいアンケートを作っている。 関 自分なりに、アンケートの答えを予想している。 書 結果を整理し、分かった事や考えたことをまとめている。
構成	2 公開 2/2	・段落の続き方を考えて、構成メモを書く。 ・段落の役割を考えると、構成メモを見直し、構成表を作る。	・事柄ごとに順序を考えて簡潔に構成メモを書く。 ・段落の役割を考えると、構成メモを見直し、構成表を作る。	書 事柄ごとに順序を考えて、報告文の構成メモを書いている。 書 段落の役割を考えると、構成メモを見直して報告文の構成表を作っている。
記述	2 公開 2/2	・相手意識や目的意識を明確にし、構成表をもとに「調査の目的」「調査内容」「調査方法」を書く。 ・相手意識や目的意識を明確にし、構成表をもとに「調査結果」「考えたこと・思ったこと」を書く。	・構成メモをもとに、報告文の前半部分を書く。 ・構成メモをもとに、報告文の後半である、自分の担当した部分を書く。	書 書く中心を明確にし、段落の続き方に注意して報告文の前半を書いている。 書 書く中心を明確にし、段落の続き方に注意して報告文の後半を書いている。 書 句読点を適切に打ち、段落の役割を理解して、必要に応じて改行しながら書いている。
推敲 敲書	2	・観点にそって推敲を行い、清書をする。	・推敲をし、清書をする。	書 観点にそって推敲し、清書している。
交流	1	・作文を読み合い、よい点を伝えるとともに、自分の学習を振り返る。	・報告文を読み、感想を述べ合う。 ・学習の振り返りをする。	話 報告文を読み合って交流しあい、学習を振り返っている。

6 本時の指導 4年1組(構成)

(1) 指導目標と評価規準・支援

指導目標	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断される児童への支援
段落の役割を考えながら構成メモを見直し、構成表を作る。	【書く力】 段落の役割を考えながら構成メモを見直し、報告文の構成を考慮することができる。	概ね満足できる(B)	十分満足できる(A)	構成メモを一つ一つ確認しながら、書く必要のある事柄を選択させる。
		構成メモを整理し、付け加えたり、取捨選択をしながら報告文の構成を考慮することができる。	構成メモを整理し、順序を考えながら報告文の構成を考慮することができる。	

(2) 指導にあたって

本時は、前時まで集めたメモを整理しながら、報告文の構成を考える時間である。文章はたいいてい、はじめ、なか、おわりの三つで構成されているということを確認し、段落と段落の続き方に注意しながら記述できるよう、構成メモの見直しを行う。書く必要のある事柄を自分で選択したり、付け加えたりすることによって、自分たちの生活を見つめ直すよりよい報告文につながっていくものと思われる。実作の段階でうまく構成ができない児童には、構成メモの中身を一緒に確認し、一段落に一つの事柄をあてはめてみるよう、声をかけていきたい。

また、友だちの考えた構成を見たり、聞いたりすることで自分の構成をもう1度ふり返り、分かりやすい報告文を書くために、どのような工夫が必要か試行錯誤する時間を与えたい。

(3) 展開

段階	学習過程	学習活動	支援 指導上の留意点・評価【 】
導入 3分	課題把握	1 前時の学習をふり返る 2 本時の学習課題をつかむ。 順序を考えながら、構成メモを整理しよう。	・前時の学習を想起させ、学習意欲を高める。
展開 35分	課題の追究方法の理解 実作 発表	3 構成メモを整理する時の手順や注意点を理解する。 ・書こうとする中心を明確にしなが、構成メモの取捨選択を行う。 4 構成メモをもとに、報告文の構成を考える。 5 友だちの発表を聞き、自分の構成をふり返る。	・はじめ、なか、おわりの3つのまとまりで構成させる。 はじめ...調べたこと、調べた方法 なか...調べて分かったこと おわり...考えたこと、思ったこと ・教師用の構成メモを提示し、実際に黒板で並べ替えることにより、構成の手順を理解させる。 ・一段落に一つの「分かったこと」が書かれるように構成を考えさせる 構成に困っている児童には、メモの内容を一緒に確認しながら支援していく。 【書く力】 事柄ごとに順序を考えながら、報告文の構成を考慮することができる。 ・発表を聞く際には、友だちの良いところや、自分の構成とは違うところに視点を置いて聞かせる。

終末	まとめる	6 本時の学習をふり返る。 ・自己評価をし、発表する。	・下記の観点に沿って自己評価させ、その後何名かに発表をさせる。 態度、意欲面(記号) 分かったこと、難しかったこと、友だちから学んだことなど(記述)
7分		次時の学習内容を確認する。	・次時は、構成表をもとに報告文の下書きを行うことを知らせる。

6 本時の指導(4年2組 記述)

(1) 指導目標と評価規準・支援

指導目標	評価規準	具体的評価規準		努力を要すると判断される児童への支援
		概ね満足できる(B)	十分満足できる(A)	
相手意識や目的意識を明確に持ち、構成メモをもとに「調査結果」「考えたこと・思ったこと」について書く。	【書く力】 書く中心を明確にし、段落の続き方に注意して報告文の後半を書いている。	「分かったこと」と「考えたこと」を区別し、「分かったこと」を順序よく書いている。	段落のつながりが適切で、「分かったこと」が資料から論理的に導き出されている。	報告書の例文を参考にし、同じ書き出しや構成で書くように助言する。

(2) 指導にあたって

本時は、記述の二時間目で、報告文の後半部分にあたる。アンケートによってひとりひとり内容が違ってくるため、個別指導が必要な場面が多くなると予想される。

記述の際は、「分かったこと」と「考えたこと・思ったこと」をしっかりと区別させるようにしていく。そのために構成表をしっかりと確認させる。また、段落ごとに原稿用紙を替えて書かせ、文章の書き直しや追加・削除、段落の入れ替えを容易にできるように支援していく。

実作では、「分かったこと」が中心になると思われるが、「考えたこと・思ったこと」についてもしっかりと書かせたい。そこで、時間をいったん区切って「分かったこと」を発表させ、各々のよさを広めた上で、「考えたこと・思ったこと」の時間を保証していく。そうすることで、「分かったこと」がうまく書けなくても、友だちの発表からヒントを得たり、自分の良さに気づかせていくように工夫する。また、記事の内容によっては、グラフや表を入れたい児童も出てくると思われるので、どの部分に配置すればより有効かを考えさせるようにする。

各段落を書き上げた児童は、終わった児童同士で読み合い、感想を持たせる。その際、簡単な感想カードをつけ、お互いの良さや改善点を交流させる。また、感想発表の後には、自分の作文をもう一度振り返る時間を取る。そうすることで、友達のよさや、みんなで話し合って得た学習内容を、自分の作文に生かせるようにしていく。

(3) 展開

段階	学習課程	学習活動	支援 指導上の留意点・評価【 】
導入 3分	課題把握	1 前時までに考えた文章の全体構成を確かめる。 2 本時の課題をつかむ。 分かったことと考えたことを区別して、報告文の下書きをしあげよう。	・学習計画を振り返り、相手意識や目的意識などを確認する。 ・紙板書などをもとに、報告文に必要な要素を確認する。

<p>展開 35分</p>	<p>課題の追究 方法の 理解</p> <p>実作</p> <p>発表</p>	<p>3 下書きの書き方を確認する。 ・事実と、自分の意見や感想とを区別して書く。 ・一つの段落には、一つの事を書く。 ・具体的な数字や名前を挙げる。 ・わかりやすい文章にするために、一つの文章をなるべく短くする。</p> <p>4 段落ごとに下書きをする。 「調べてわかったこと」の段落を書く。</p> <p>「考えたこと、思ったこと」の段落を書く。</p> <p>5 友達の発表を聞き、自分の文章をふり返る。</p>	<p>・下書きに入る前に、ポイントを確認する。 ・途中で思い出した事や気づいた事があれば、構成メモにとらわれずに文章に取り込んで書いていくようにうながす。 ・原稿用紙の使い方も確認する。</p> <p>・後で書き加えたり、順番を入れ替えたりできるように、自分で考えた文章構成のまとめりごとに、別々の原稿用紙に書かせる。 ・図やグラフで表す事が効果的な場合は、どの部分に入ればより有効かを考えさせる。 ・時間を設定し、時間になったら何人かに発表させる。 書き進められない児童には、教材文を読ませて、段落の役割を説明し、書き出しを同じにして書くよう、アドバイスする。 段落ごとの文章が書き上がった児童は、終わった児童同士で読み合い、感想を書かせる。 【書く力】 書く中心を明確にし、段落の続き方に注意して報告文の後半を書くことができる。 ・何人かに感想を発表させた後、自分の作文を見直す時間を取り、よりよい作文に仕上げる態度を育成する。</p>
<p>終末 7分</p>	<p>まとめる</p>	<p>6 本時の学習をふり返る。 ・自己評価をし、発表する。</p> <p>次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・下記の観点に沿って自己評価させ、何人かに発表させる。 態度・意欲面（記号） 工夫したところ、難しかったところ、友達から学んだこと（記述） ・次時は、推敲を行うことを知らせる。</p>